

☆待降節第2主日(12月10日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります

第一朗読(イザヤの預言 40章 1-5、9-11節)

慰めよ、わたしの民を慰めよと
あなたたちの神は言われる。
エルサレムの心に語りかけ彼女に呼びかけよ
苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。
罪のすべてに倍する報いを主の御手から受けた、と。
呼びかける声がある。
主のために、荒れ野に道を備え
わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。
谷はすべて身を起こし、山と丘は身を低くせよ。
険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。
主の栄光がこうして現れるのを肉なる者は共に見る。
主の口がこう宣言される。
高い山に登れ
良い知らせをシオンに伝える者よ。
力を振るって声をあげよ
良い知らせをエルサレムに伝える者よ。
声をあげよ、恐れるな、ユダの町々に告げよ。
見よ、あなたたちの神
見よ、主なる神。
彼は力を帯びて来られ、御腕をもって統治される。
見よ、主のかち得られたものは御もとに従い
主の働きの実りは御前を進む。
主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め
小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。

第二朗読(使徒ペトロの手紙II 3章 8-14節)

愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴かれてしまいます。このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません。神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、熔け去ることでしょう。しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。だから、愛する人たち、このことを待ち望みながら、きずや汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい。

福音朗読 (マルコによる福音書 1章 1-8節)

神の子イエス・キリストの福音の初め。預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」

そのとおり、洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。

彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ

待降節の主題とも言えるイザヤ書の預言の言葉が高らかに歌われます。「コンソラミニ、コンソラミニ、ポプレメーウス！（Consolamini, Consolamini, Popule Meus）」。哀愁を帯びた歌声が響いていました。この哀愁を帯びた歌はご自分の民を愛しまれる神様の心の底からのうめきとでも言うものでしょう。私たちはどのようにこの声に応えるのでしょうか。

第一朗読（イザヤの預言 40章 1-5、9-11節）

イスラエルの民がバビロン捕囚の苦しみの中にあつて、神に叫びをあげ、神はそれにこたえる形でこの預言がなされています。神の心から離れてしまったイスラエルの民がもがき苦しむ様子を見て、神は救いの約束をなされています。「罪に倍する報いを御手から受けた」と言われます。弱さのために陥った罪は、神を遠ざけるものではなく神の慈しみの心をうずかせるのだと思います。神は救いを約束され、その救いが訪れるために私たちの凸凹の心を整えるよう求めています。

第二朗読（使徒ペトロの手紙Ⅱ 3章 8-14節）

使徒ペトロは十二弟子の一人としてイエス・キリストに出会い、生活を共にしていました。そのペトロはイエスの中に救い主キリストを見たのです。ペトロはイエスを裏切るような大きな過ちを犯したのですが、その度にイエスに許され立ち直ったのです。そのペトロが何よりも望んでいたことはまたイエスと顔と顔を合わせて再会することでした。ですから当時の教会はイエス・キリストの再臨を今か今かと待ち望んでいました。なぜ遅いのだ！とがっかりする人たちにペトロは答えます。「ひとりも滅びないように・・・、あなたがたのために忍耐しておられるのだ」と。

福音朗読 (マルコによる福音書 1章 1-8節)

今日読まれる福音は福音書として最初に著されたマルコによる福音です。冒頭に告げられる「神の子イエス・キリストの福音の初め」という言葉はシンプルですが、この本が何を知らせようとしているかがはっきりと示されています。そして洗礼者ヨハネの役割が述べられています。「荒れ野で叫ぶものの声」。まさに砂漠の荒野に響き渡るヨハネの声！「主の道を整え、その道筋を真っすぐにせよ」。これは今日の第一朗読で読まれたイザヤ書の言葉です。その声に従いたくさんの人々がヨハネのもとに来て罪を告白し、洗礼を受けたのです。また別の福音ではこのヨハネのところに来て「私はどうすればよいですか」と尋ね、生活の改善のアドバイスを聞いています。 私たちも主の降誕を迎えるにあたって、生活の改善と隣人への愛の行いを実行するようにならしましょう。そうした具体的な改善こそが主を迎えるのに一番大切なのです。私たちの生活は大変ですが、もっともっと大変な生活に苦しんでいる人たちのことを考えて行動しましょう。



2019年12月 足立教会子供会

P.S.

寒さの中、我が子イエスを飼い葉桶に寝かせなければならなかったマリア様の心はいかほどだったでしょう。マリア様とイエスさまの生活は初めから大変だったのですね。「イエス様ほんとうにすみません」。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光